

資料6

工事の実施状況等について

令和元年11月

沖縄防衛局

台風17号とその対策について

台風17号対策の経緯

- 9月18日(水)午前4時の気象・海象予報にて最大瞬間風速15m/s以上の予測値を確認したため※、辺野古側フロートの撤去を決心し、同日午前9時より作業船の手配等を開始。なお、有義波高については予測値1.2mを単発的に数回確認するにとどまっておき、その他の台風対策は不要であった。
 - ※ 第16回環境監視等委員会で設定
: 平成30年7月1日の台風7号被害を受け、「辺野古側のフロートについて、台風の最大瞬間風速が一時的であれ15m/sとなる気象予報がされた場合には、撤去する対策を行う考え」と設定
- 18日午前10時、2日後には有義波高1.2m以上の高波が継続する予測値(1.2m~1.6mを18時間)が確認され、さらに悪化することも懸念されたため、辺野古側フロートの撤去に加え、汚濁防止膜や大浦湾側フロートの撤去が必要となった。
- 実施順序については、移設対象のものを含む多くのサンゴに近接していること、背後地に浅瀬が広範囲に存在することなどを考慮し、汚濁防止膜及び大浦湾側フロートの撤去を優先する計画とした。
- 18日午後1時より台風対策を順次実施。汚濁防止膜及び大浦湾側フロートの撤去が完了した19日(木)午後3時より、辺野古側フロート撤去に着手。その時点までの予報では翌20日(金)の作業時間帯の有義波高は1.1m~1.6mであり作業を行える見込みであったが、20日早朝より海象状況が悪化し作業時間帯の有義波高は1.6m~1.9mとなり海上作業が行えず、辺野古側フロートの一部については撤去が行えなかった。
- 21日(土)、台風17号が沖縄島へ最接近。最大風速20m/s以上が23時間以上継続的に発生し、辺野古側フロートの一部が護岸上へ打ち上げられる被害が発生した。

今後の対応

- ◆ 今般のフロートの護岸への打ち上げは、必要な台風対策を実施したものの、台風の急激な発達により対応が間に合わなかったことによるもの。
- ◆ 今後は、**台風シーズン(6月~10月)**について、**作業人員及び作業船を増やすことにより海上での作業期間を短縮し**、台風の急激な発達などによって台風対策期間が短い場合へも対応可能な体制とする。

アンカー移動による海草藻場等への影響について

○台風17号接近に伴う風浪の影響により、辺野古側のフロートが岸側へ大きく移動したことに伴い、フロートのアンカーも移動したことから、海況が安定した後に潜水調査を行い、海草藻場及びサンゴ類の状況を確認した。

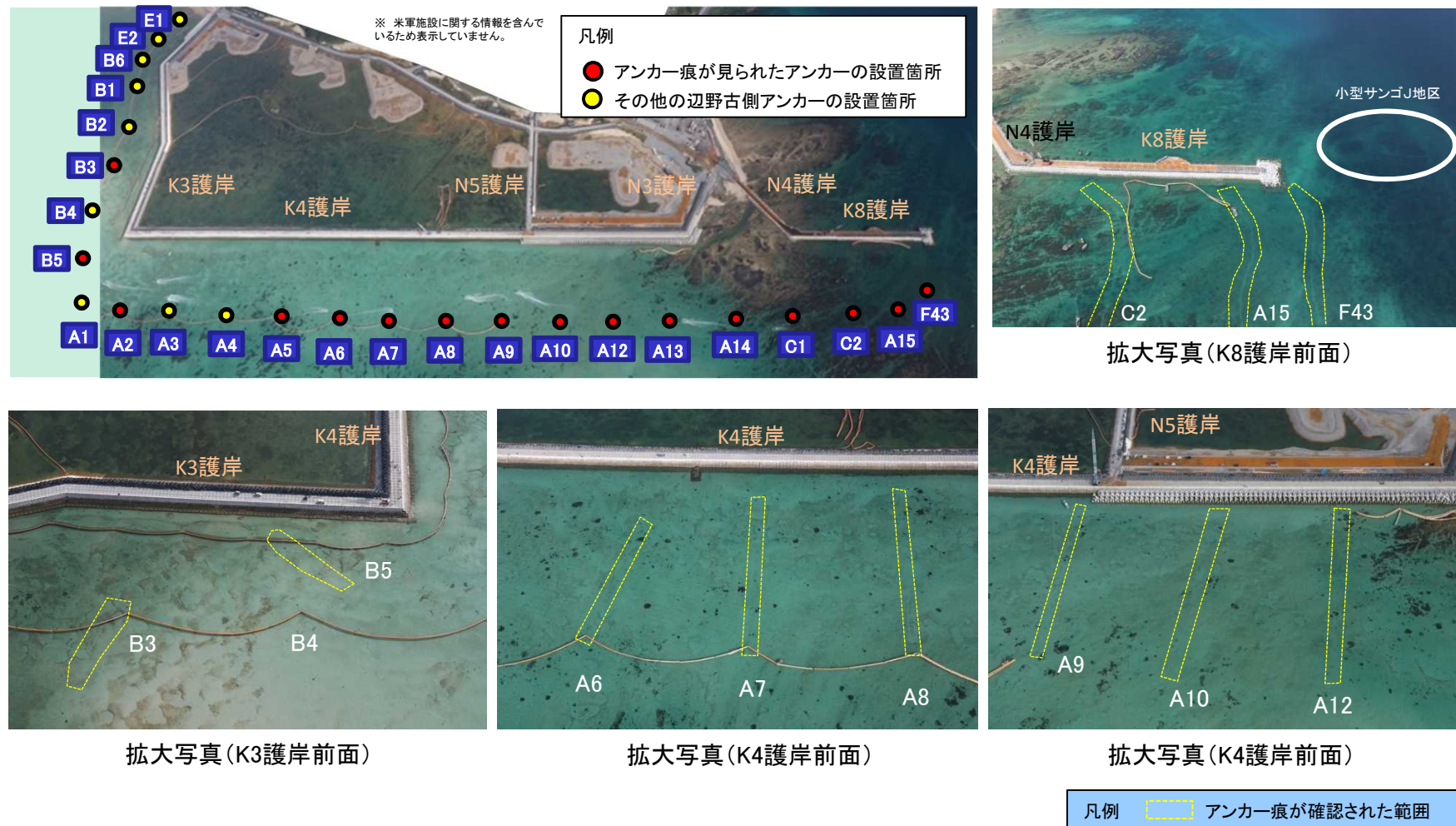
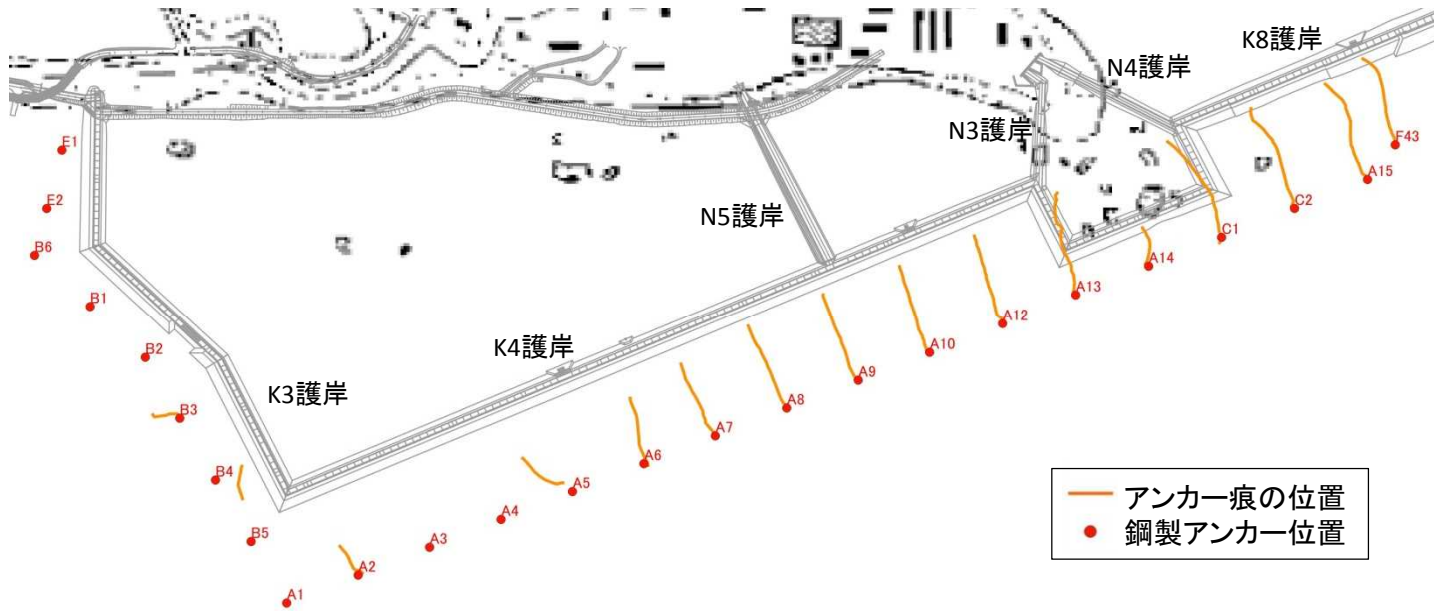


図1 上空から撮影された写真(令和元年9月24日撮影)

○アンカー痕が海草藻場を通過している箇所では、アンカー痕に沿って海草藻場の損傷が見られた。
 ○辺野古崎周辺でアンカー痕が確認されたA14, C1, C2, A15, F43 では、サンゴの損傷がみられたが、環境省版海洋生物レッドリストに掲載されている種は確認されなかった。



アンカー痕			
地点	長さ	幅	深さ
B3	約 40m	約 0.5m	約 10cm
B5	約 50m	約 0.7m	不明瞭
A2	約 55m	約 0.6m	約 5cm
A5	約 70m	約 0.4m	約 3cm
A6	約 100m	約 0.5m	不明瞭
A7	約 110m	約 0.6m	約 2cm
A8	約 130m	約 0.6m	約 5cm
A9	約 130m	約 1.0m	約 5cm
A10	約 125m	約 0.7m	約 5cm
A12	約 140m	約 0.8m	約 10cm
A13	約 165m	約 0.5m	約 5cm
A14	約 55m	不明瞭	不明瞭
C1	約 165m	不明瞭	不明瞭
C2	約 160m	不明瞭	不明瞭
A15	約 155m	不明瞭	不明瞭
F43	約 140m	不明瞭	不明瞭

幅及び深さはアンカー痕上の代表1点の値を傾向として示したもの。



幅50cm程度、深さ10cm程度

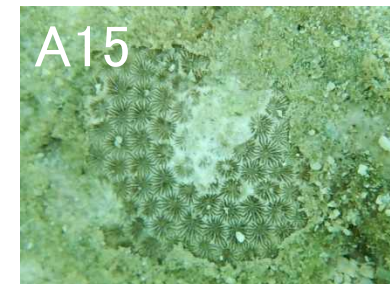


幅100cm程度、深さ5cm程度

海草藻場の損傷状況 (B3、A9)



スボミキクメイシ 長径8cm



タヤマヤスリサンゴ 長径3cm

サンゴ類の損傷状況 (C2、A15)

図2 海草藻場及びサンゴ類の損傷状況確認調査結果